ひかり結ぶまち

かりや景観れぽーと

テーマ
景観の見方

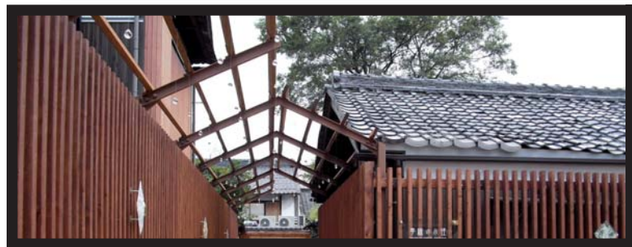
VOL.19

発行日:平成23年3月1日
発　行:刈谷市都市計画課
ＴＥＬ:(0566)62-1022

堀 繁 先生（東京大学アジア生物資源環境研究センター教授）

専　門 景観デザイン、景観工学、計画設計思想史地域計画

主な経歴 環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京工業大学社会工学科助教授などを経て、平成8年3月より現職。
国土審議会、歴史的風土審議会の各専門委員の他、建設省「道路環境計画」農水省「日本の美しい村景観コンテスト」、水産庁「美しい漁村づくり」環境庁「日本の音風景100　選」国土庁「地方振興方策のあり方に関する検討」、日本道路公団「高速道路景観整備実践マニュアル」など、国、公団、地方公共団体等の各委員会座長・委員等を歴任。



今回の景観れぽーとは、平成22年11月に実施したかりや景観づくり講座※についてご紹介します。
平成19年度から4回目のご登場となりますが、今年も、景観まちづくりの第一人者である東京大学の堀先生を講師にお招きして、秀吉のつくったまちとして知られる長浜で「景観まちあるきin長浜」を開催しました。
堀先生と一緒に景観スポットを歩きながら具体的な景観づくりの事例を学び、景観の見方や基礎をはじめとして、良い景観の見極め方、景観づくりのポイント等、多くのことを教わりました。景観づくりに精力的に取り組んでいるまちを見て、刈谷の景観をもっともっと良くしていくアイディアをたくさん見つけると同時に、身近な景観づくりへの思いを新たにすることができたようです。
みなさんも、いつも目にするまちなみへの見方をちょっと変えて、美しい刈谷の景観づくりをお手伝いください！

※かりや景観づくり講座

市民のみなさんに景観形成に対する意識をより高めてもらい、みなさんの手による都市景観づくり活動や、美しい都市景観の創出につながる機会としていただくことを目的に、平成15年度から毎年開催しています。

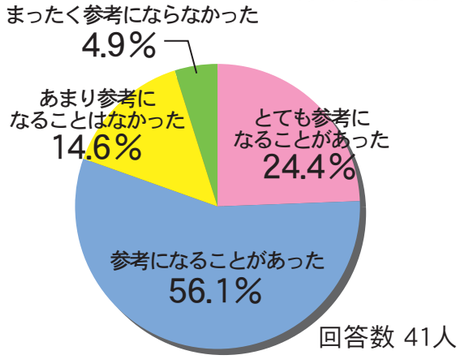
長浜市中心市街地の概要

長浜市は、滋賀県北東部、琵琶湖の湖畔に位置しており、その中心市街は羽柴秀吉により長浜城の城下町として整備され、町を南北に貫く北国街道や琵琶湖水運の要衝として栄えました。
近年は、明治時代に建築され「黒壁銀行」の愛称で市民に親しまれていた建築物解体の危機をきっかけに、その保存と中心市街地活性化の拠点としての活用を目的とした第三セクターのまちづくり会社(株)黒壁が設立され、江戸時代の面影を残す古い街並みを活かしたまちづくりが始まりました。
「黒壁」の成功をきっかけとして、地域のさまざまな団体が連携してまちづくりに取り組んでおり、かつては日曜日の午後2時から3時までの1時間に「人4人と猫1匹」しか通らないほどの状況から、毎年200万人もの観光客が訪れるようになりました。

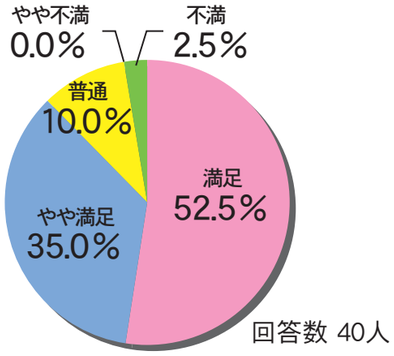
かりや景観づくり講座への参加者の声

講座終了後、参加者の方にアンケートへご協力いただきました。ここでその結果の一部をご紹介します。

Q 今後の景観づくりの参考になることはありましたか？



Q 講座の内容はいかがでしたか？感想を教えてください。



Q どんなことが参考になりましたか？

- 街の活性化と景観の関連性について理解できた。
- 何気なく良い景観、悪い景観と思っていたのが、ポイントを教えていただいたことでなぜそう感じたのか理解でき、直すところも具体的に分かるようになったと思います。
- 個人の家でも玄関の前に花や植木を置けば、景観が良くなると思いました。
- 人が歩くための歩道は、まちの景観や買い物の集客のために大事ということがわかりました。

景観まちあるき NAGAHAMA 長浜

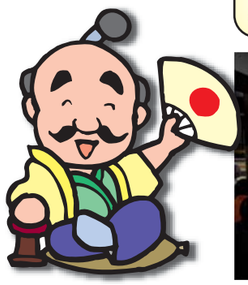
東京大学教授の堀繁先生を講師に迎えて、景観づくりのお話を伺いながら一緒にまちを歩いてまわり、具体的な景観づくりについて学びました。

講義　景観の見方を身につけよう！

◎「景観」とは？

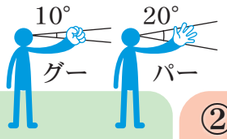
景観とは、ある視点（見ている場所）から見ること、見ることによって生まれる視覚像のこと。

見ている場所（視点場）からあるもの（対象物）を眺め、そこに見えるものが景観です。きれいな山やまちなみ等（対象物）があっても、それを見る場所（視点場）がなければ、景観にはなりません。



重要文化財に指定されている大通寺大広間での講義も貴重な経験になりました。

◎良い景観とは？



①見たいものが見やすいこと（見たくないものが見えにくいこと）

- 見たいもの…自分が今いるところがどんなところなのかについて、理解の手がかりを与えてくれるもの
- 見やすいもの…程よい大きさで見えるもの。具体的には、手を伸ばして「グー」から「パー」の間の大きさ（見込角が10°～20°の間）で見えるもの。

②見たものが、私のことを大事にしてくれている表現がたくさんあること

- まちを構成する二大要素「道」と「沿道の建物」に、人を大事にする表現が豊かにあること。例えば、歩きやすい歩道、居心地の良い休憩スペース、店舗前に置かれた花や照明、のれんといった人をもてなす表現が重要です。

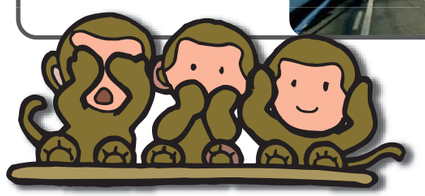
◎良い景観のポイント

私たちは見ることによって、今どういう状況で何が大事なのかを認識します。

そのため、どんな場所かということを教えてくれる唯一の手がかりであるまちなみが、他のものに邪魔されず、とても見やすくなっているといい景観だと感じます。

教会の大きさも見込角20°と見やすい状態になっています。

上の写真の教会に引けを取らない立派な日本のお城ですが、車や照明柱、電柱、木などに邪魔されて、見たいお城がよく見えません。



車道と歩道の幅員を見てみると、歩道の方が広くなっています。また、道の特等席である真ん中が歩道です。

これは、人間を大事にしていますよということです。たくさん置かれたベンチも、人間を大切にしているというメッセージです。

便利な道具である車を通していますが、車道は狭く、花やベンチがたくさん置かれているため、車が走りにくく見えます。

車よりも人間を大事にしているように見えるといい道だと感じます。

同じ通りでも、左の写真のように、ひもうせんを敷いた縁台があると、人間の方を大事にしているように感じられます。

※本れぽーとに掲載されている講義時の画像の著作権は、堀繁先生に帰属します。
講義時の画像は、長浜以外の事例を含んでいます。

景観まちあるき

堀先生・アシスタントの堀温子さんと一緒に長浜中心市街地で景観まちあるきを行い、景観づくりの事例を具体的に学びました。

道路や公園といった公共の空間を題材として、よりよい景観づくりについて教わりました。

どの道が楽しそうに見えますか？

どの道を歩いてみたいと思いますか？

実際のお店では、店の入口の作り方や置かれているベンチ・植物、店内の照明等、さまざまな具体例を見ながら、人を大事にする「もてなしの表現」のあり方を教わりました。

どのお店がより魅力的に見えますか？

どのお店に入ってみたいと感じますか？

◎にぎわうまちづくりのポイント

次の「三種の神器」がバランスよく揃っていると、私たちは楽しく、居心地よく感じられます。

三種の神器

あいさつの装置
植物や花の鉢など、道行く人に挨拶のメッセージを出しています。

迎賓の装置
ベンチ、テーブル、椅子、暖簾、雰囲気の良い照明、灯籠、日よけの傘など、あなたを迎える準備ができているというメッセージを伝えるものです。

集客の装置
メニュー、看板、商品、商品サンプルなど、何を売っているのか知らせるものです。